

2022 年度 保健衛生学部 IR 報告書

2021 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)



藤田医科大学 | R推進センター
保健衛生学部 | R分室

2023 年 1 月 26 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2022 年度 保健衛生学部 I R 報告書

2021 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2022 年度 保健衛生学部 IR 報告書

「2021 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2021 年度の保健衛生学部の卒業生を対象とした保健衛生学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2023 年 1 月 26 日

2022 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 保健衛生学部 I R 分室

藤原 郁、加藤睦美、世古留美、鈴木めぐみ、藤村健太、武田和也、井上知重、
島向健太

目 次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	5
3-1) アンケート調査方法	5
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	7
3-2-1) 学部全体としての分析	13
3-2-2) 学科間の比較	13
3-3-1) 看護学科	16
3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	18
3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	20
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	22
4-1) アンケート調査方法	22
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	22
4-2-1) 看護学科	22
4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻	26
4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻	30
5. 参考資料	33

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2020 年度保健衛生学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・集計・分析を行った。

158 施設・部署にアンケート調査を実施し、106 施設・部署から回答が得られた（回収率：67.1%）。保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では、「DP 6：国際解決」以外の 7 項目の評価平均値はほぼ等しく、設問間で大きな相違は認めなかった。「責任行動」「コミュニケーション」「専門知識」「倫理教養」に関する項目が「最低水準は修得できている」以上であると高く評価された施設が多かったが、「国際解決」に関する項目は他の項目より低い評価であった。また、学生の自己評価と就職先管理担当者の評価を比較すると、就職先管理担当者による評価値が全ての設問で低い値を示したが、大きな相違は認めなかった。学科・専攻間で比較すると、看護学科において学生自己評価と就職先管理担当者との評価の差が 1 ポイント以上ある項目もあり、リハビリテーション学科と比べ差が大きかった。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、すべての学科で「最低水準は修得できた」以上と回答した施設がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した施設はわずかであった。上述の傾向は、これまでの卒業生とほぼ同様であった。

以上の結果より、すべての学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、保健衛生学部における教育は持続的に質を高く保てている状況であると判断できた。しかし、学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度が相対的に低い評価となったものについては対応していく必要がある。学部においては「国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる」という国際化対応と論理的に物事を解決するための能力について、学科においては看護学科の「最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる」、リハビリテーション学科理学療法専攻および作業療法専攻の「最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる」と、研究力に関連する事項の評価が低く、今後も就職先のニーズに答えられるよう教育内容の改善していく必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけていべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2021 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができる。

(態度)

- 6) 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができる。
 - 8) 患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。保健衛生学部の看護学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、リハビリテーション学科（理学療法専攻と作業療法専攻の共通）を表2-3に示す。

表2-2. 看護学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に「学士（看護学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記的能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、看護学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 看護職の基盤となる知識と技能を有している。
- 2) 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。
- 3) 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。
- 4) 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。
- 5) 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。
- 6) 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。
- 7) 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。
- 8) 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

表2-3. リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に理学療法専攻では「学士（理学療法学）」、作業療法専攻では「学士（作業療法学）」の学位を授与します。

卒業試験は下記的能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、リハビリテーション学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力を有している。
- 2) 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度を身につけている。
- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と

適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができる。

- 4) 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる。
 - 5) 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができる。
 - 6) 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができる。
 - 7) 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

保健衛生学部の2021年度卒業生を対象として、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はWeb回答方式(Google フォームを利用)とし、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの各項目(計8項目)を設問として、それに対する就業者(2021年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1～第4教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の期間は、8/8(月)に調査対象となる就職先施設へ調査依頼上(「5. 参考資料」を参照を郵送し、9/30(木)までにアンケートへのWeb回答を依頼した。

アンケート調査の対象施設を表3-1に示す。

アンケート調査項目(保健衛生学部ディプロマ・ポリシー)を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

看護学科	調査施設数：26施設+42部署 依頼部署：第1教育病院(28部)、救急救命センター(6部)、 第2教育病院(4部)、第3教育病院(2部)、 第4教育病院(2部) ※配属された病棟単位で直接依頼
リハビリテーション学科 理学療法専攻	調査施設数：54施設 第1教育病院、第2教育病院、第3教育病院、第4教育病院含む
作業療法専攻	調査施設数：36施設 第1教育病院、第2教育病院、第3教育病院、第4教育病院含む

表 3－2. アンケート調査の設問項目（保健衛生学部ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学習内容について知識が習得できていますか？
DP 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につけていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価する為の情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (国際解決)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？
DP 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか？
DP 6 (責任行動)	対人の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任を持った行動をとることができるようになっていきますか？
DP 7 (専門技能)	専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができるようになっていきますか？
DP 8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評価尺度（6段階）

6：完全に修得できた
5：概ね修得できた
4：最低水準は修得できた
3：ある程度修得したが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2021 年度保健衛生学部卒業生を対象とした保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率		回収率 (昨年度)
看護学科	77.9%	(53／68 施設・部)	84.4%
リハビリテーション学科			
理学療法専攻	51.9%	(28／54 施設)	76.9%
作業療法専攻	69.4%	(25／36 施設)	78.8%
計	67.1%	(106／158 施設・部)	80.7%

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表３－５．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

DP1 (専門知識)	学部	看護	リ理	リ作
6	5	1	1	3
5	28	11	11	6
4	44	21	10	13
3	27	18	6	3
2	2	2	0	0
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

DP2 (倫理教養)	学部	看護	リ理	リ作
6	5	1	1	3
5	25	7	10	8
4	47	26	11	10
3	23	13	6	4
2	6	6	0	0
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

DP3 (科学行動)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	0	1	1
5	20	6	7	7
4	39	22	9	8
3	39	20	10	9
2	6	5	1	0
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

DP4 (国際解決)	学部	看護	リ理	リ作
6	2	0	0	2
5	10	3	4	3
4	26	10	9	7
3	43	26	8	9
2	24	13	7	4
1	1	1	0	0
n	106	53	28	25

DP5 (生涯学習)	学部	看護	リ理	リ作
6	5	0	1	4
5	19	4	9	6
4	39	25	8	6
3	31	13	9	9
2	11	10	1	0
1	1	1	0	0
n	106	53	28	25

DP6 (責任行動)	学部	看護	リ理	リ作
6	13	2	5	6
5	31	13	11	7
4	36	22	7	7
3	20	10	5	5
2	6	6	0	0
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

DP7 (専門技能)	学部	看護	リ理	リ作
6	5	1	2	2
5	31	10	13	8
4	34	20	5	9
3	29	18	6	5
2	7	4	2	1
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

DP8 (コミュカ)	学部	看護	リ理	リ作
6	12	3	4	5
5	29	14	9	6
4	36	17	12	7
3	25	16	3	6
2	4	3	0	1
1	0	0	0	0
n	106	53	28	25

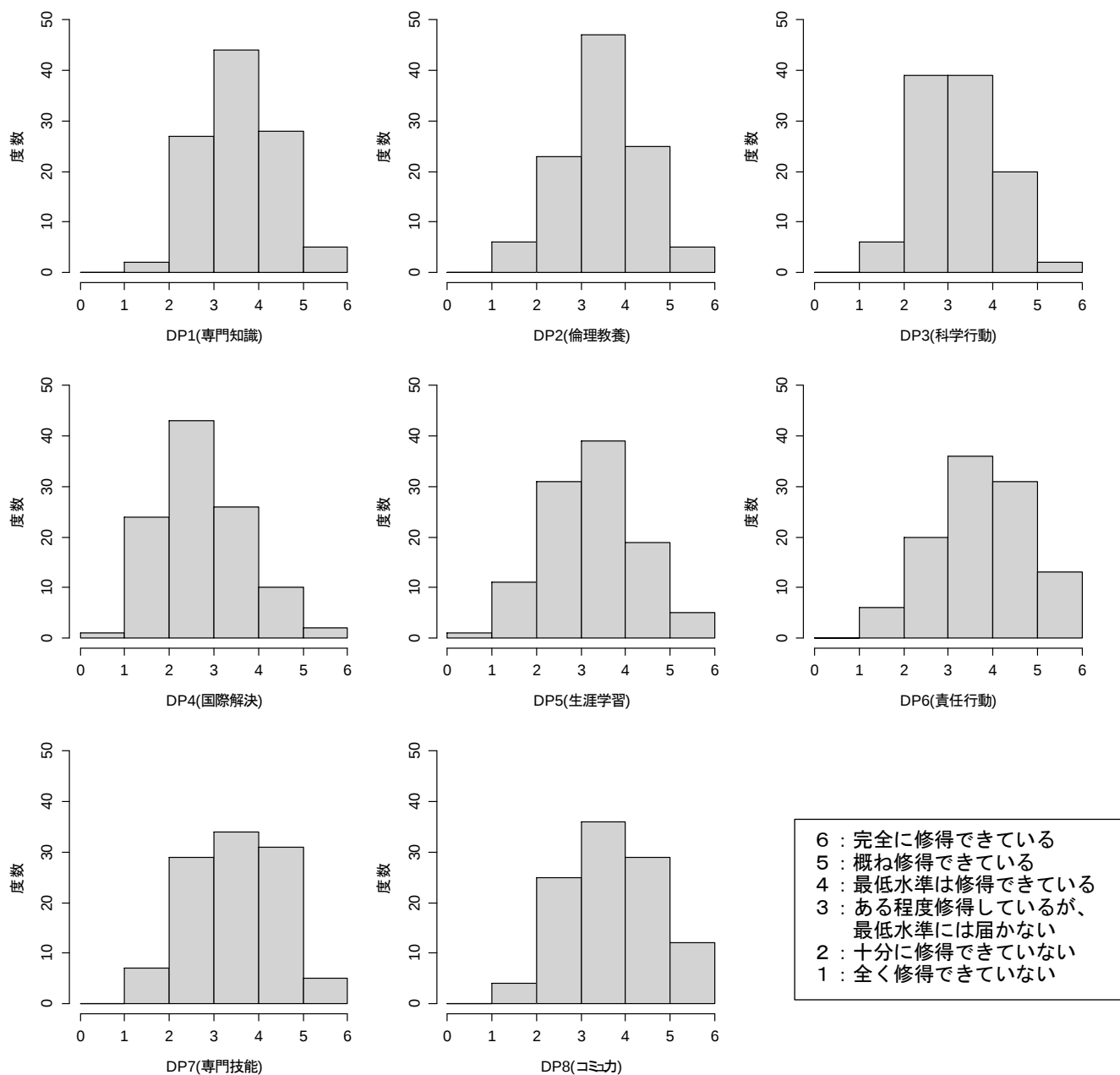


図3－1．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

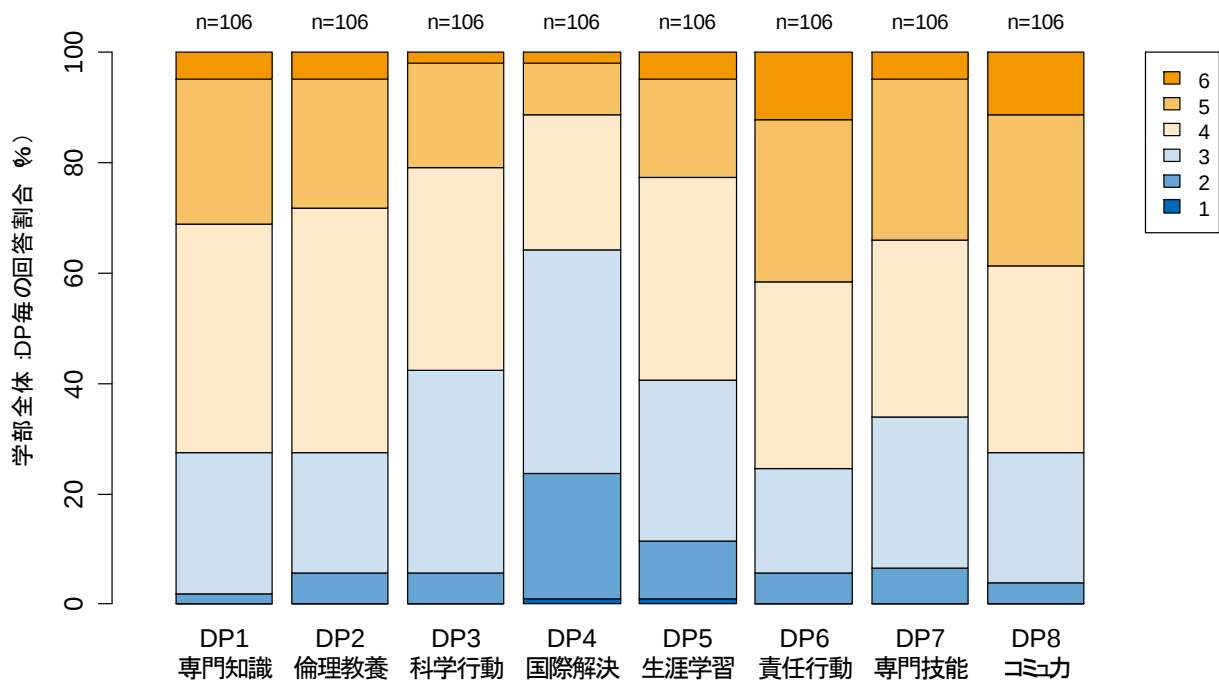


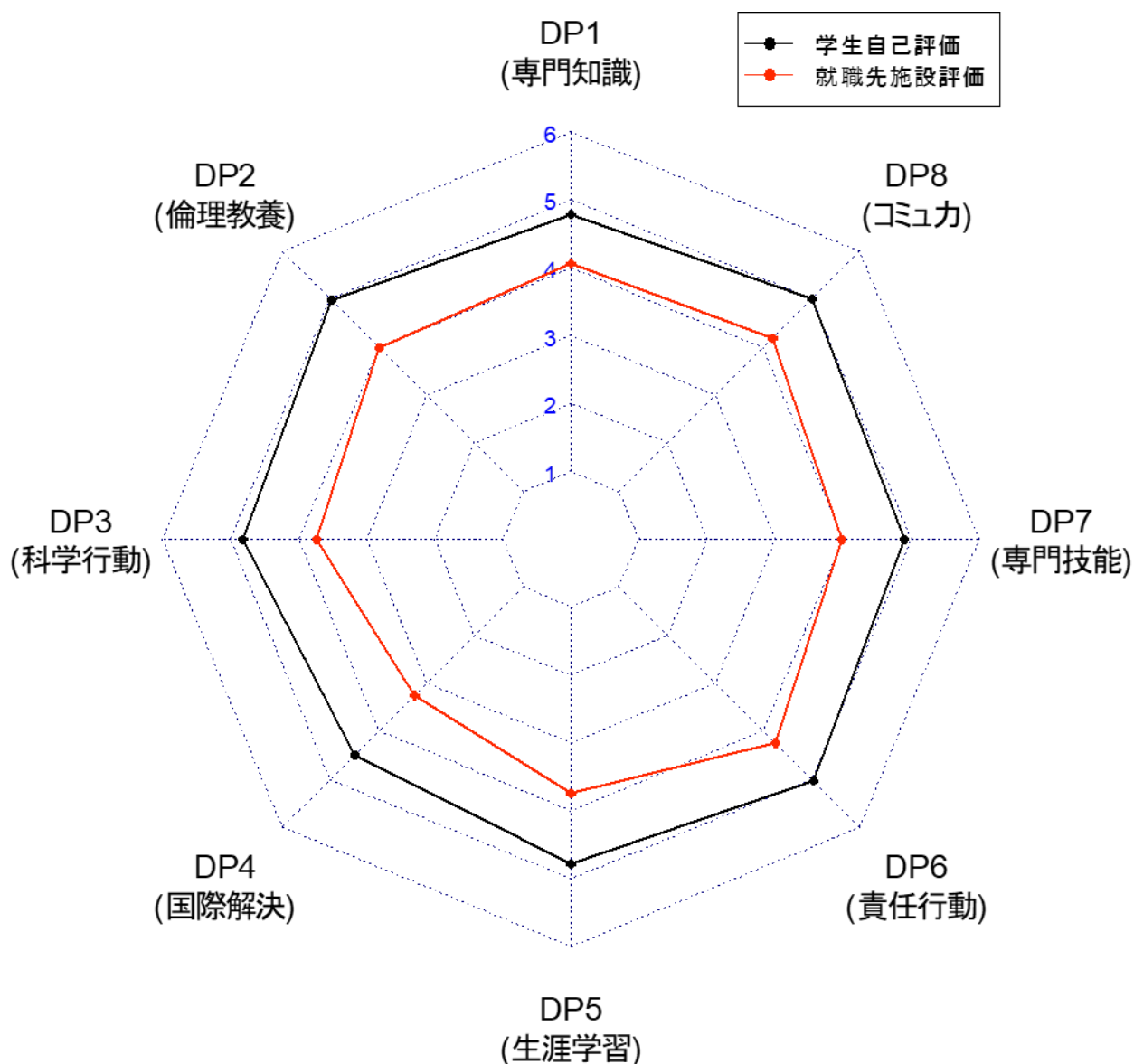
図3-2. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3-6に示す。

DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3-3に示す。DP1～DP8は、保健衛生学部IR分室より2022年6月6日に報告された「2021年度保健衛生学部IR報告書—2021年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3-3に示す。

表３－６．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)					DP2 (倫理教養)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	4.07	3.83	4.25	4.36	平均値	4.00	3.70	4.21	4.40
標準偏差	0.88	0.86	0.83	0.84	標準偏差	0.93	0.90	0.82	0.89
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6
最小値	2	2	3	3	最小値	2	2	3	3
n	106	53	28	25	n	106	53	28	25
DP3 (科学行動)					DP4 (国際解決)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	3.75	3.55	3.89	4.00	平均値	3.25	3.02	3.36	3.60
標準偏差	0.89	0.81	0.94	0.89	標準偏差	1.00	0.86	1.01	1.13
中央値	4	4	4	4	中央値	3	3	3	3
最大値	6	5	6	6	最大値	6	5	5	6
最小値	2	2	2	3	最小値	1	1	2	2
n	106	53	28	25	n	106	53	28	25
DP5 (生涯学習)					DP6 (責任行動)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	3.75	3.40	4.00	4.20	平均値	4.24	3.91	4.57	4.56
標準偏差	1.05	0.94	0.96	1.10	標準偏差	1.07	1.01	0.98	1.06
中央値	4	4	4	4	中央値	4	4	5	5
最大値	6	5	6	6	最大値	6	6	6	6
最小値	1	1	2	3	最小値	2	2	3	3
n	106	53	28	25	n	106	53	28	25
DP7 (専門技能)					DP8 (コミュ力)				
学部	看護	リ理	リ作		学部	看護	リ理	リ作	
平均値	3.98	3.74	4.25	4.20	平均値	4.19	3.96	4.50	4.32
標準偏差	1.01	0.91	1.09	0.98	標準偏差	1.04	1.01	0.87	1.16
中央値	4	4	5	4	中央値	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	最大値	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	最小値	2	2	3	2
n	106	53	28	25	n	106	53	28	25



保健衛生学部	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	4.07	4.00	3.75	3.25	3.75	4.24	3.98	4.19
学生自己評価 b	4.79	4.97	4.83	4.51	4.79	5.03	4.90	5.01
差 a-b	-0.72	-0.97	-1.08	-1.27	-1.04	-0.79	-0.92	-0.82

図3-3. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評価値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

保健衛生学部の 2021 年度卒業生を対象とした、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は「DP：国際解決」以外の 7 項目で大きな差はなかった（平均値 3.90 ± 0.98 ）。最も評価が高かったのは「DP 6：対人の健康維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任を持った行動をとることができるようになっていきますか？（責任行動）」の 4.24 ± 1.07 であり、最も評価が低かった項目は「DP 4：国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか？（国際解決）」の 3.25 ± 1.00 であった（表 3-6）。また、国際解決以外の中央値は、「4：最低水準は修得できている」であった。「4：最低水準は修得できている」以上の評価が最も多かったのは「DP 6：責任行動」で 75.5%（80/106 件）であり、次いで「DP 1：専門知識」「DP 2：倫理教養」「DP：8 コミュ力」が 72.6%（77/106 件）であった。（図 3-2 および表 3-5）。一方、「DP 4：国際解決」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が 64.2%（68/106 件）と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、DP 1～DP 8 の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、0.72～1.26 点低いことから、就職先管理者の評価基準が高く設定されている（逆に言えば、学生の評価基準が甘い）ことが推察される（図 3-3）。これらの評価結果を踏まえて、社会のニーズに対応した人材育成を目指すとともに、国際的視野を見据え、論理的思考、問題解決能力がアップできるように、今後の教育改善や学生指導を実施していくことが重要である。

3-2-2) 学科間の比較

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図 3-4 に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図 3-5 に示す。

DP 1～DP 8 の各学科における評価の中央値は、「DP 4：国際解決」で看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻、作業療法専攻、いずれも 3 であった以外は、すべて 4 以上であった（表 3-6）。DP 1～DP 8 の各学科における 4 以上の評価（3 以下の評価）。看護学科で 56.3%（43.7%）、リハビリテーション学科理学療法専攻で 71.4%（28.6%）、リハビリテーション学科作業療法専攻で 72.0%（18.0%）であり、看護学科の評価が低かった。

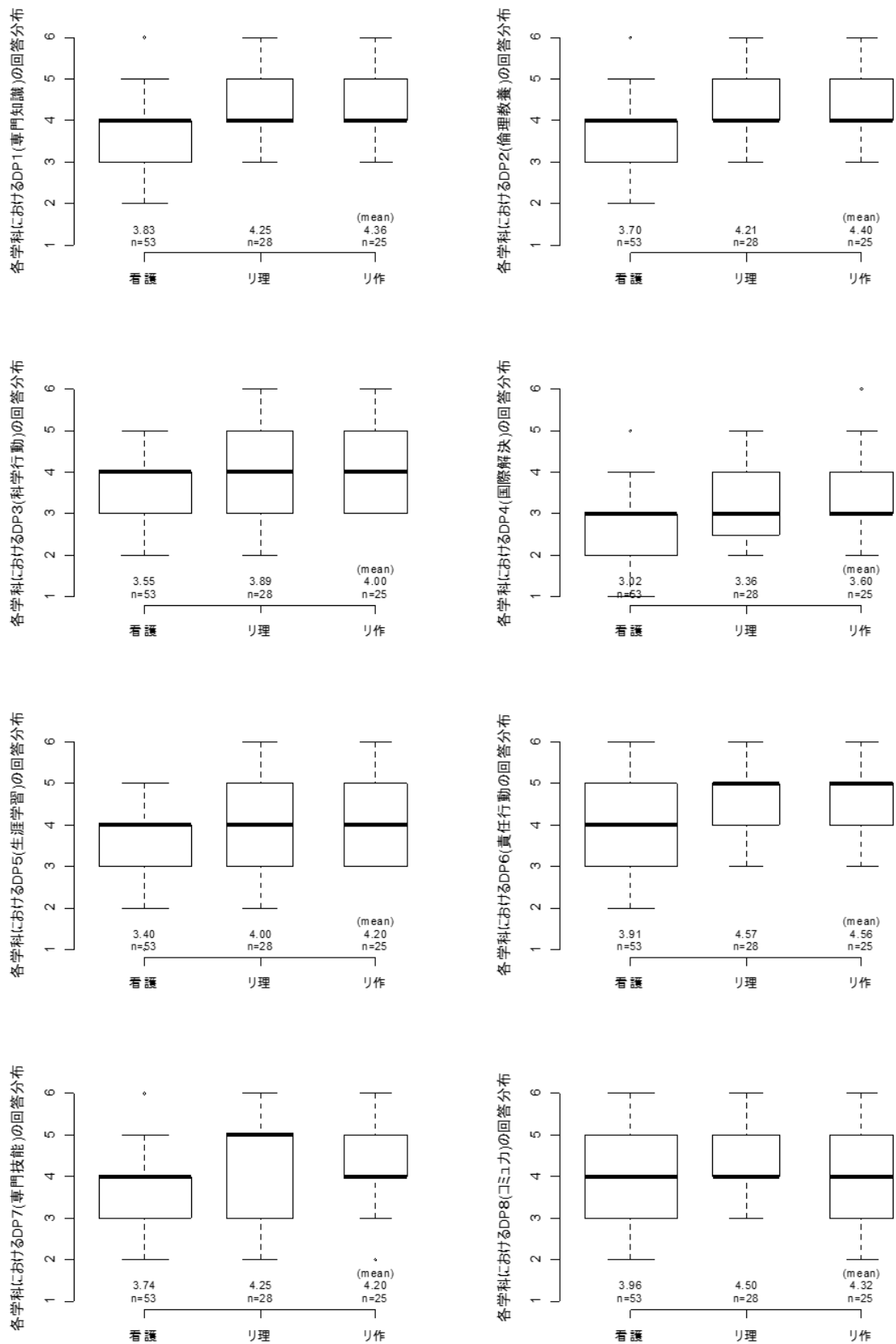


図3-4. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

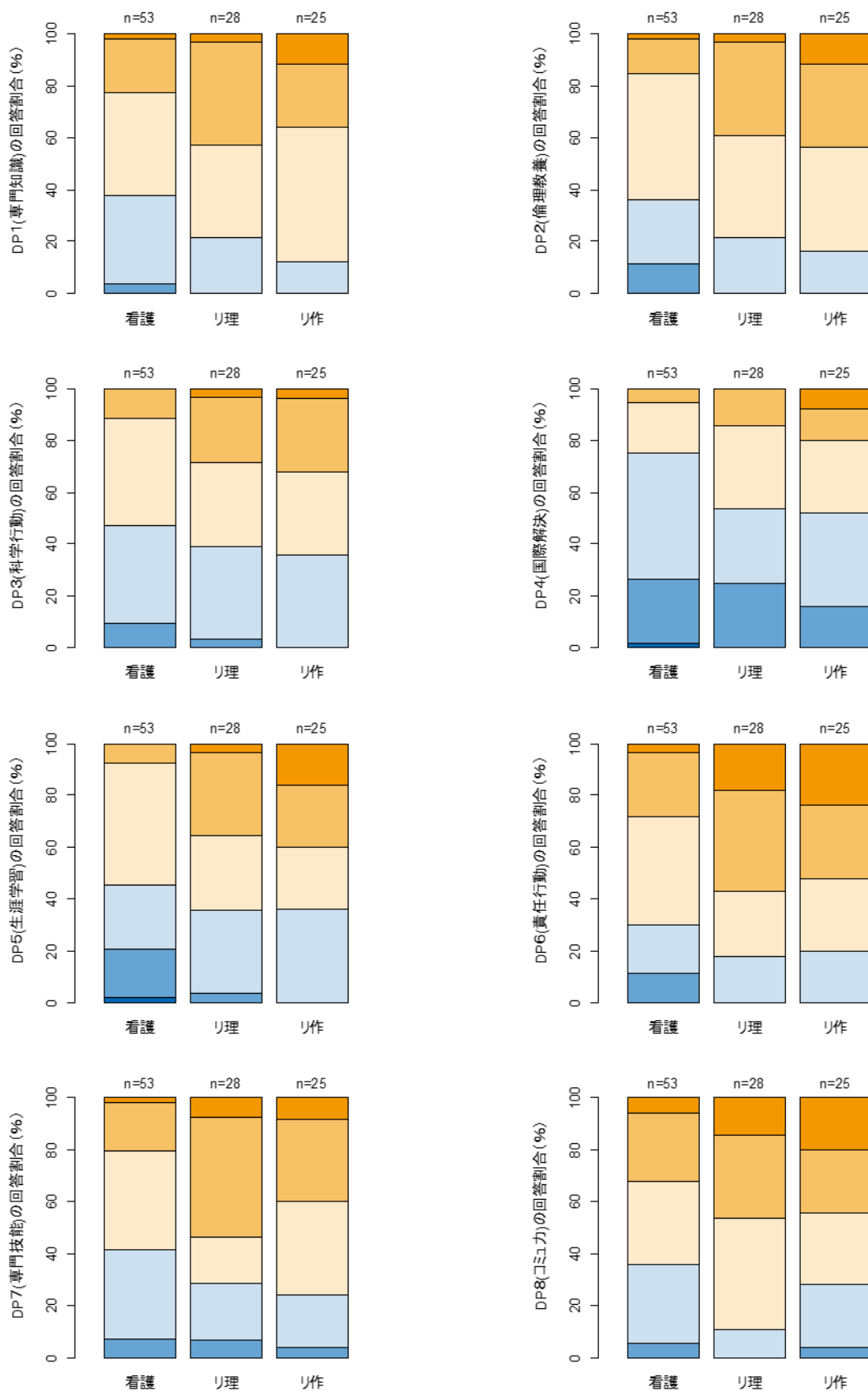


図3-5. 保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合 (%) の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 看護学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における看護学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の評定値の平均値は学部全体の平均値よりすべて低かった。学生自己評価について看護学科は他学科と比較し、就職先施設評価との差がすべての項目で大きい傾向を示した。

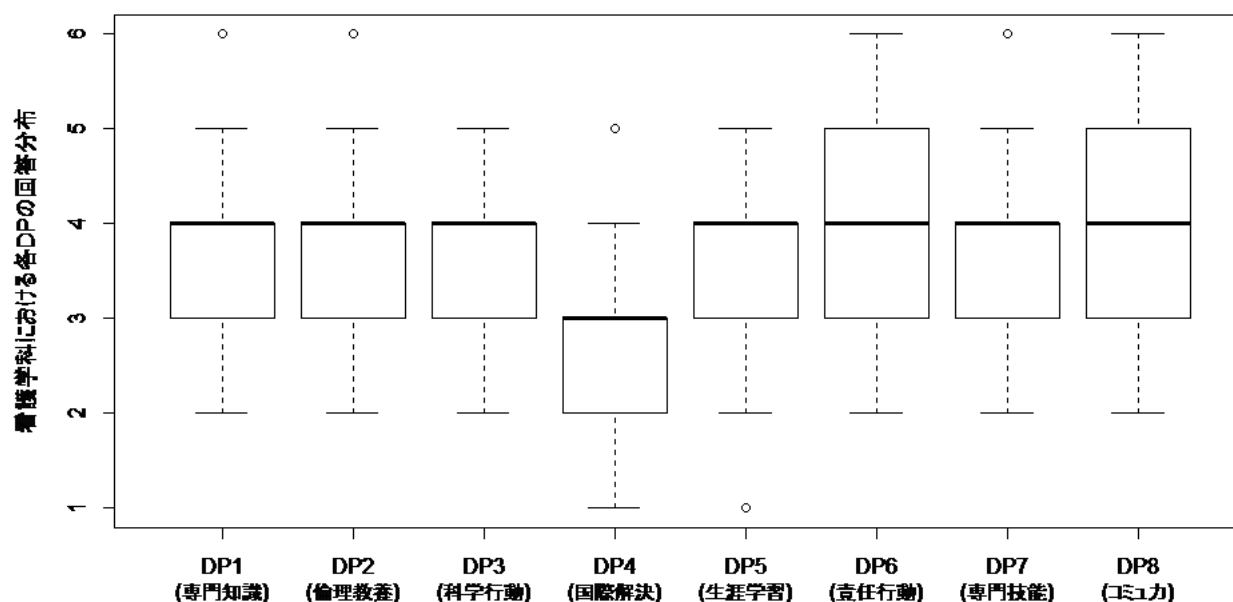


図3-6. 看護学科の回答分布

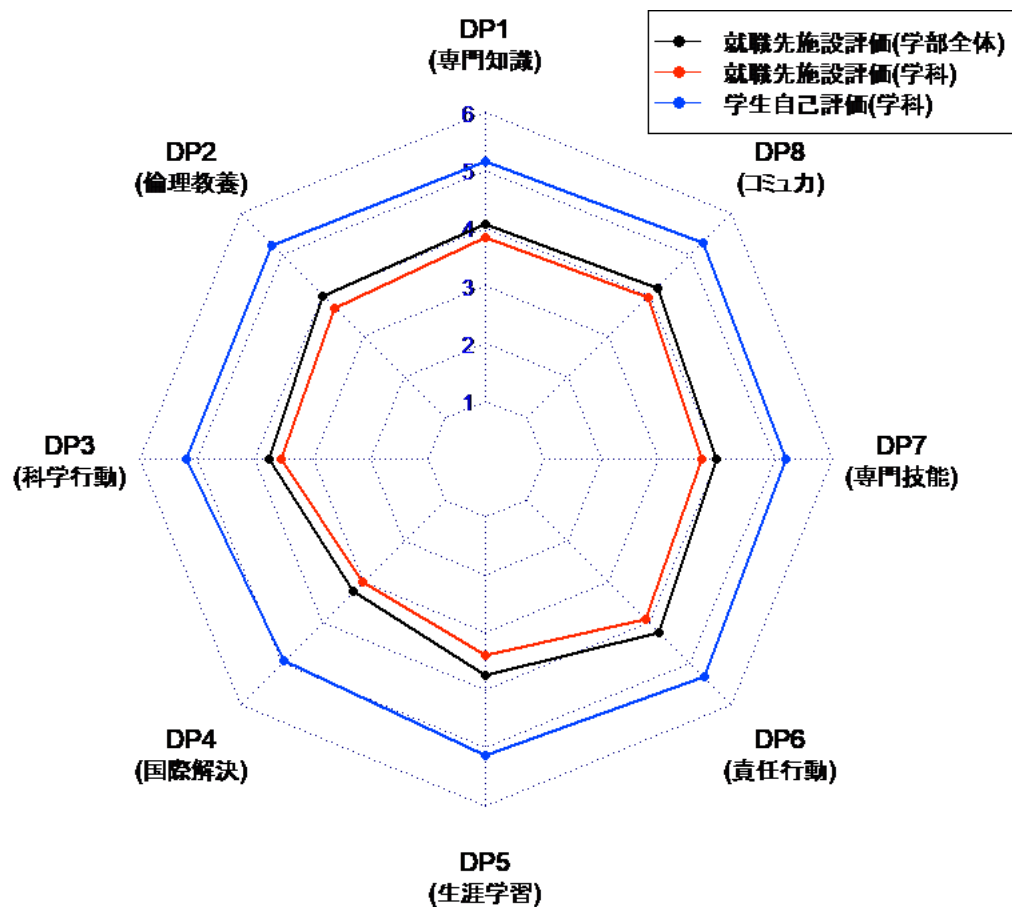


図3－7．回答結果の看護学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・理学療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における理学療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の評定値の平均値は学部全体の平均値に比べ、やや高い傾向であった。全ての設問において、就職先施設評価値に比べ、自己評価値が高い傾向を示した。DP1、DP6、DP8では差が小さく、一方で、DP4で差が大きくなった。

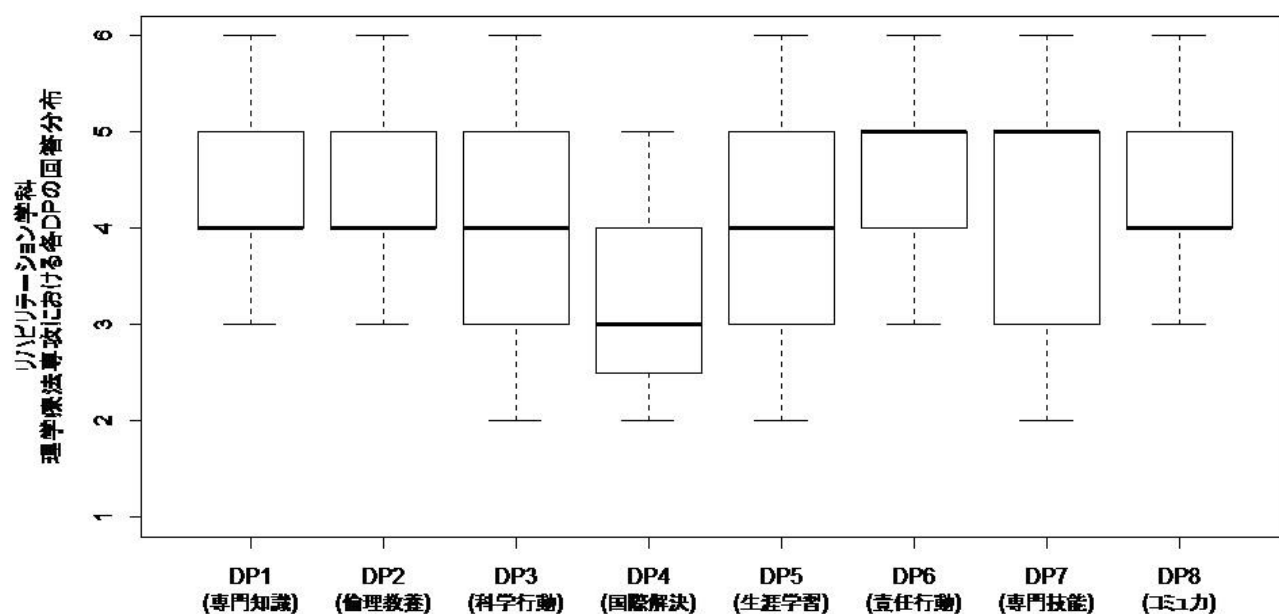


図3-8. リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布

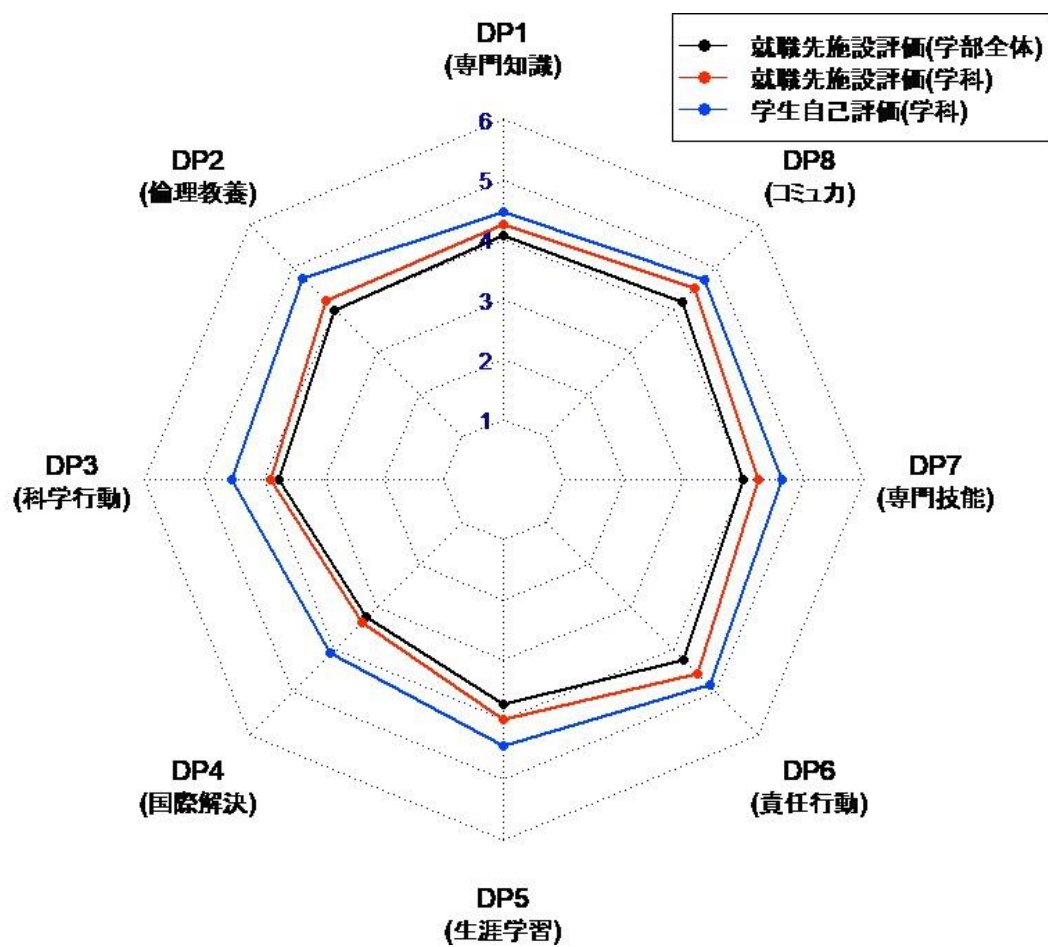


図 3－9．回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較（平均値）

3-3-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-10に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・作業療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における作業療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-11に示す。

DP1～DP8の全てにおいて、学科の評定値の平均値は学部全体の平均値に比べ、やや高い傾向であった。DP2、DP3、DP4、DP7、DP8は就職先施設評価値に比べ、自己評価値が高い傾向を示した。反対に、DP1、DP5、DP6は自己評価値が低い傾向を示した。両者の差はどのDPも大きくはなかった。

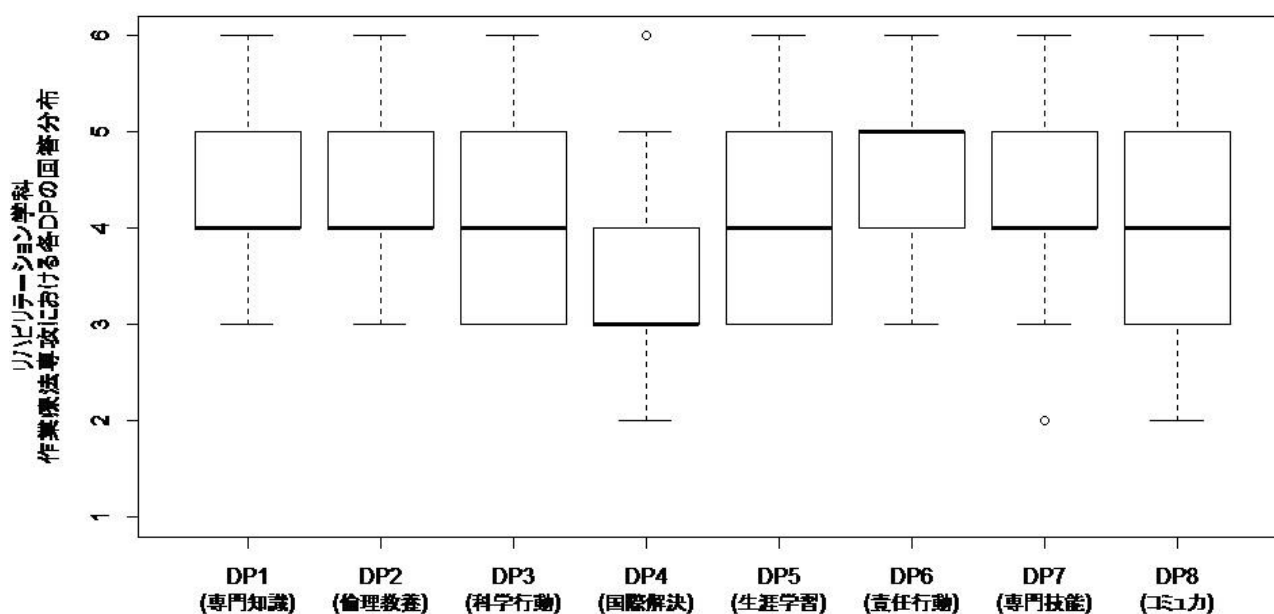


図3-10. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布

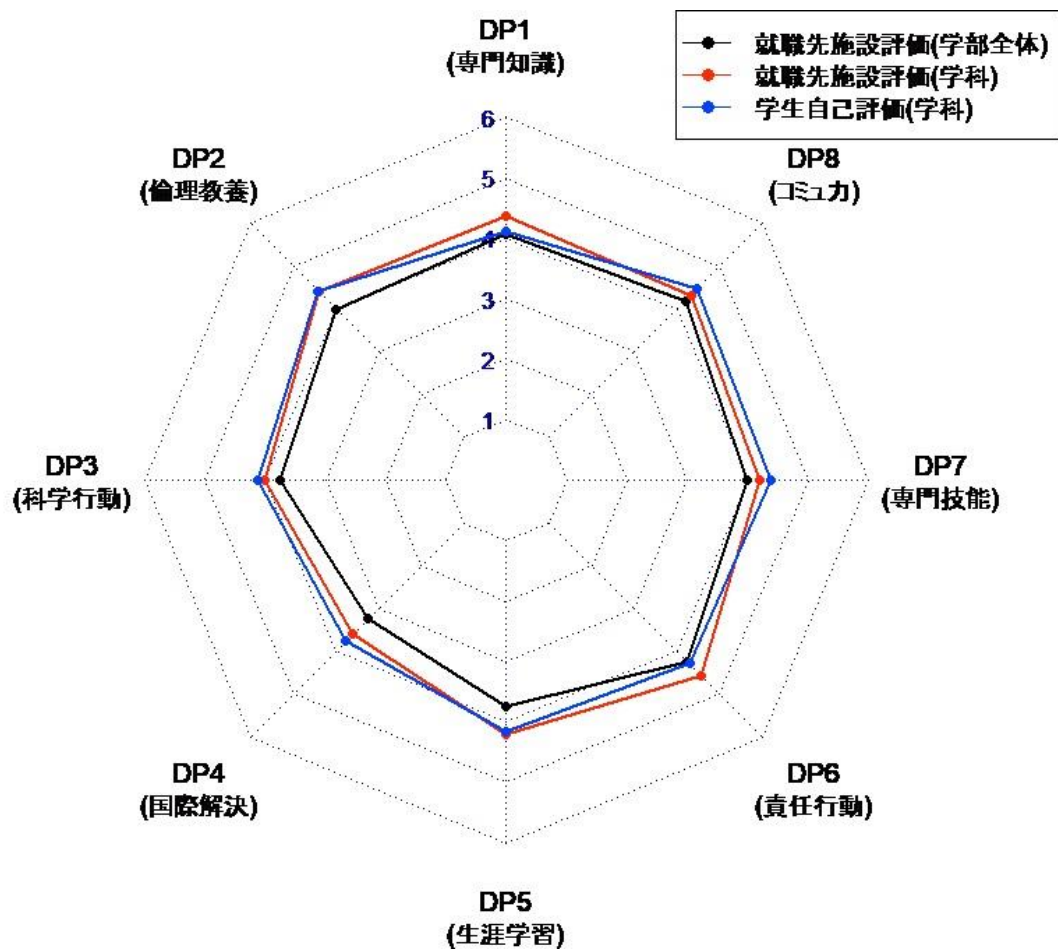


図 3-11. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法専攻と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

保健衛生学部 の 2021 年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式または Web 回答方式（Google フォームを利用）のいずれかで、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者（2021 年度本学部卒業生）全体としての到達度を 6 段階で評価して頂いた。すなわち 1 施設あたり 1 評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第 1 ～第 4 教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）は、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である（表 3-1）。また、達成度の 6 段階の評定尺度も同様である（表 3-3）。2020 年度保健衛生学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 4-1 に示す。

表 4-1. アンケート調査票の回収状況（各学科ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率		回収率 (昨年度)
看護学科	77.95%	(53/68 部)	73.5%
リハビリテーション学科			
理学療法専攻	51.9%	(28/54 施設)	76.9%
作業療法専攻	69.4%	(25/36 施設)	80.8%
計	67.1%	(106/158 施設・部)	82.3%

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 看護学科

アンケート調査項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）を表 4-2 に示す。

2021 年度看護学科卒業生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP8 に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図 4-1 に示す。各設問に対する回答の割合を図 4-2 に示す。

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 4-3 に示す。DP1～DP8 について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図 4-3 に示す。

2021 年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価の平均値は2.89～3.77であった。中央値をみるとDP1：知識技能、DP2：看護基礎、DP3：自立責任、DP4：生涯学習、DP5：コミュ力においては、「4：最低水準は修得できている」であった。DP6：協調指導、DP7：地域貢献、DP8：国際探求の平均値は4以下であり、DP8：国際探求が最も低い結果であった。傾向としては昨年と同様であったが、平均値は全体的に低くなっていた。アンケートの実施時期は、8～9月に集中して実施したため、調査時期は就職し3～4か月後のほぼ同一条件である。臨地での実践は各医療機関の研修体制もあり、新型コロナウイルス感染症での研修体制も3年目であり、通常とは異なった環境であったとしてもほぼ確立していると考えられる。中央値が3であったDP6：協調指導、DP7：地域貢献、DP8：国際探求においては、新型コロナウイルス感染症による実習体制の縮小などの変更の中で、学生が十分に実践できていなかったと考える。

就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は1.43～2.03であり、DP8：国際探求の差が一番大きかった。学生評価が全体に高い傾向があり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表4－2. アンケート調査の設問項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	看護職の基盤となる知識と技能が身についていますか？
DP2 (看護基礎)	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになっていますか？
DP3 (自律責任)	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになっていますか？
DP4 (生涯学習)	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢が身についていますか？
DP5 (コミュ力)	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになっていますか？
DP6 (協調指導)	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができるようになっていますか？
DP7 (地域貢献)	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになっていますか？
DP8 (国際探求)	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになっていますか？

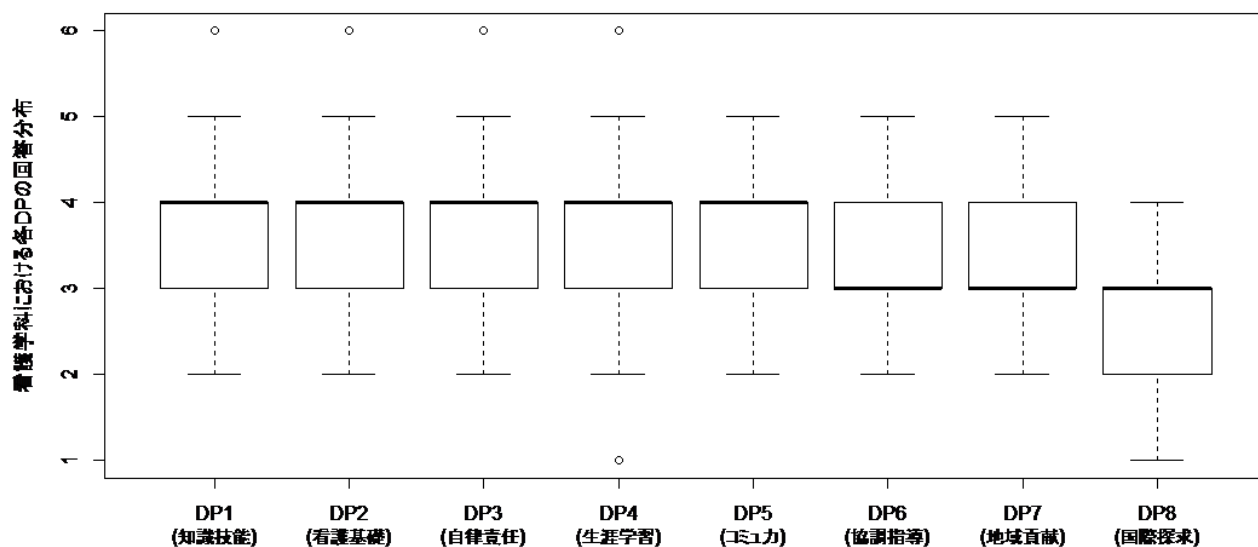


図 4 - 1. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

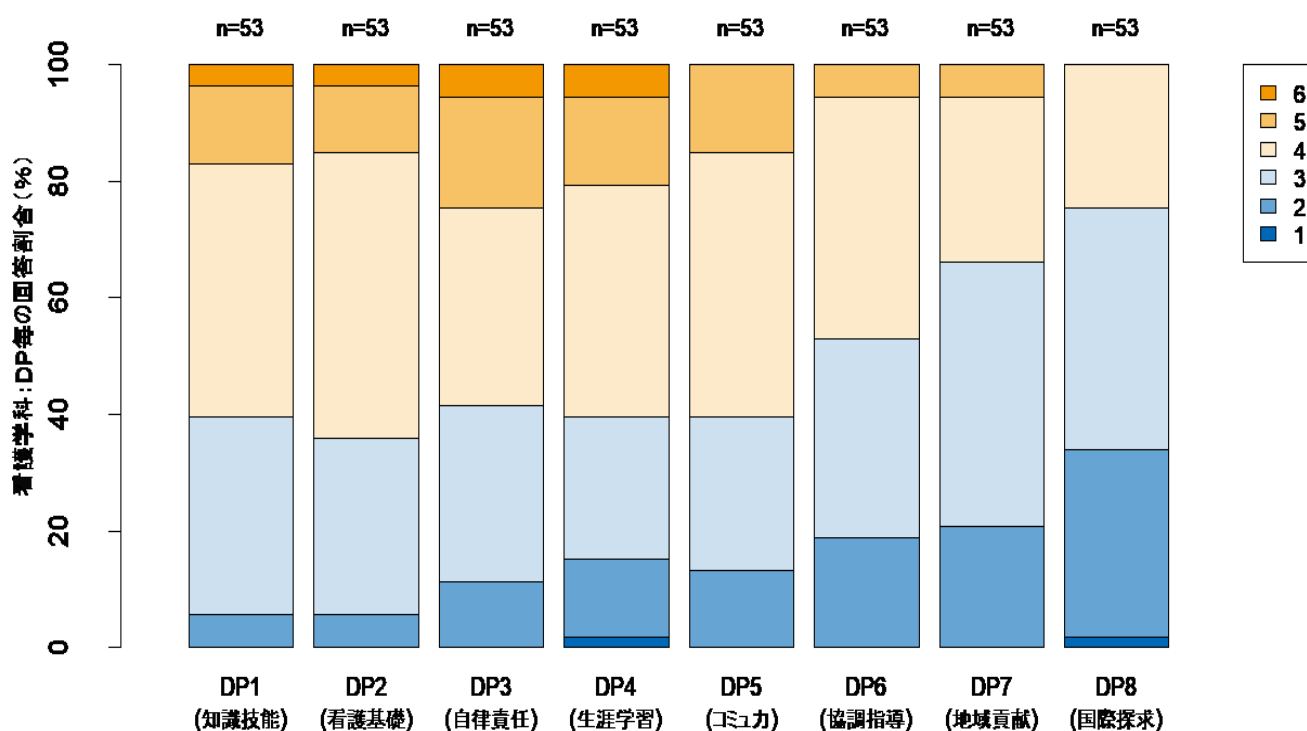
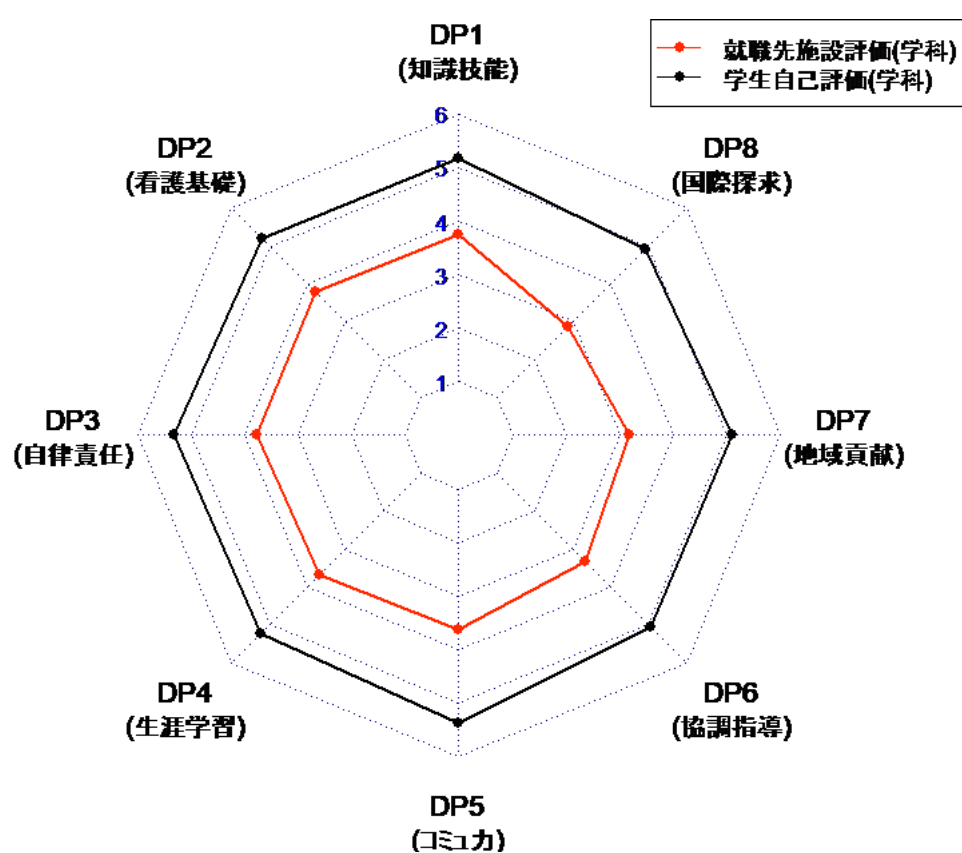


図 4 - 2. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
平均値	3.75	3.77	3.77	3.70	3.62	3.34	3.19	2.89
標準偏差	0.89	0.86	1.06	1.11	0.89	0.85	0.83	0.79
中央値	4	4	4	4	4	3	3	3
最大値	6	6	6	6	5	5	5	4
最小値	2	2	2	1	2	2	2	1
n	53	53	53	53	53	53	53	53



看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
就職先施設評価 a	3.75	3.77	3.77	3.70	3.62	3.34	3.19	2.89
学生自己評価 b	5.18	5.21	5.32	5.25	5.37	5.06	5.09	4.92
差 a-b	-1.43	-1.43	-1.55	-1.55	-1.75	-1.72	-1.90	-2.03

図 4－3. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2021 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2021 年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、全ての項目において、評定値の中央値は「4：最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できていると考えられる。DP2：倫理態度、DP7：チーム医療については、他の設問より平均値がやや高く、「4：最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門的な職業人としての基本的な態度とチーム医療に貢献する資質を問う項目であり、本学科の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、DP4は、上記項目と比較して「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」や「2：十分に修得できていない」の割合が多い傾向を認めたことから、「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は0.5から0.7程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表 4－4．アンケート調査の設問項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）

DP 1 (専門知識)	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身についていますか？
DP 2 (倫理態度)	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身についていますか？
DP 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか？
DP 4 (生涯学習)	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになっていきますか？
DP 5 (地域貢献)	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになっていきますか？
DP 6 (専門技能)	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになっていきますか？
DP 7 (チーム医療)	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか？

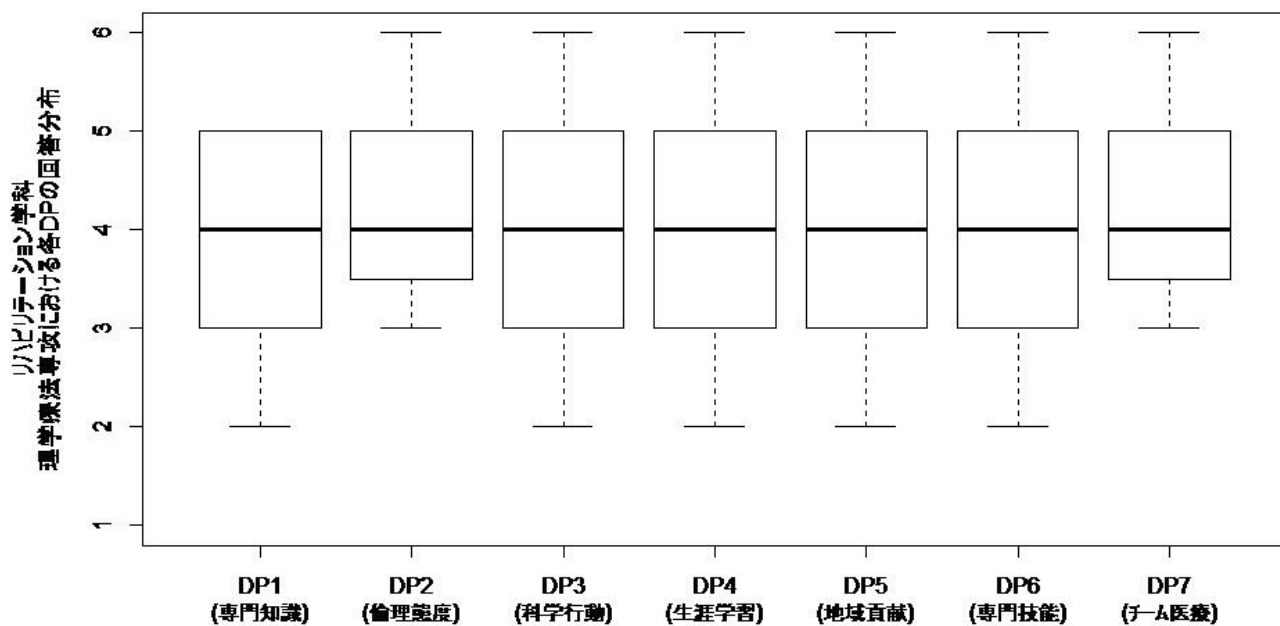


図 4－4．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

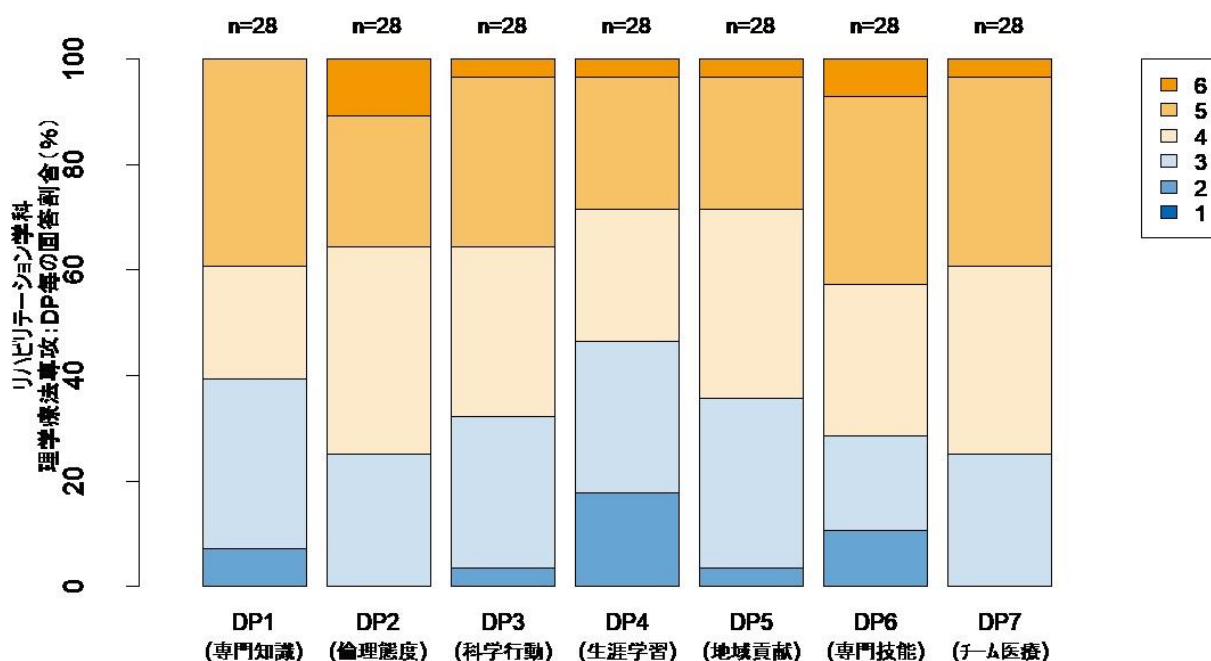
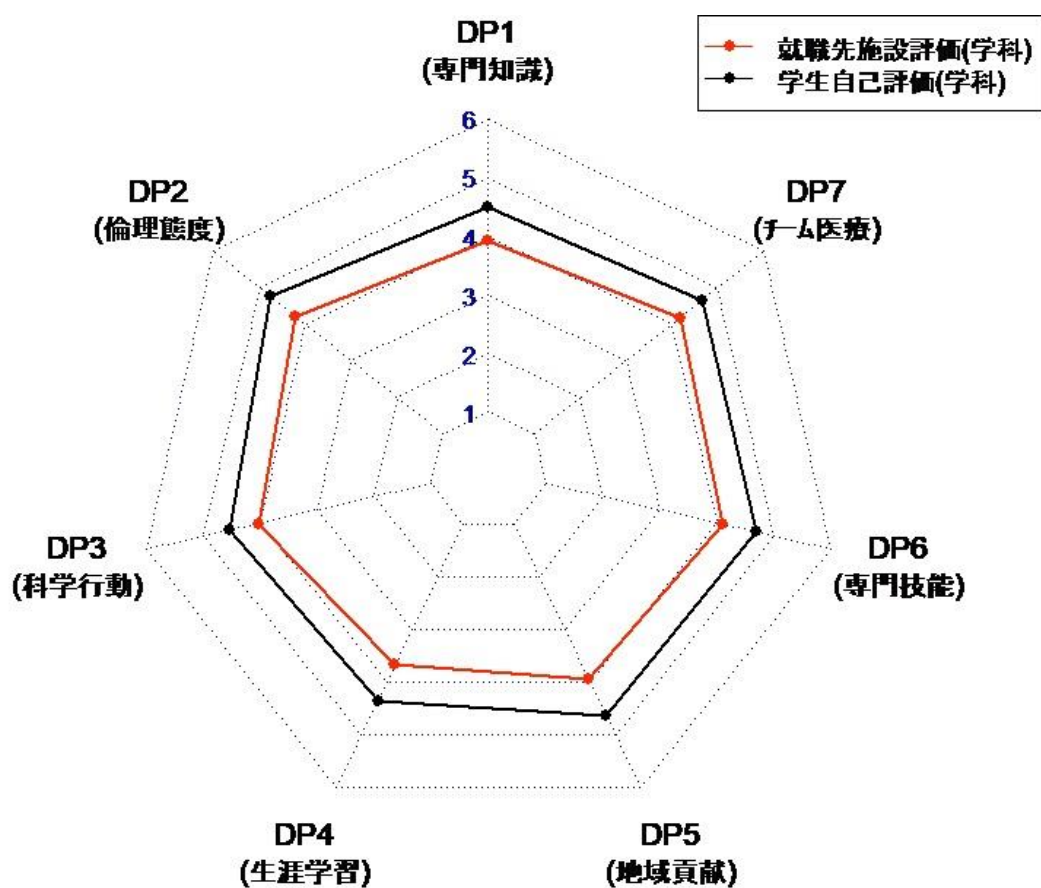


図 4－5．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ理	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	3.93	4.21	4.04	3.68	3.93	4.11	4.18
標準偏差	1.00	0.94	0.94	1.14	0.92	1.11	0.85
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	5	6	6	6	6	6	6
最小値	2	3	2	2	2	2	3
n	28	28	28	28	28	28	28



リハ・理学	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	3.93	4.21	4.04	3.68	3.93	4.11	4.18
学生自己評価 b	4.49	4.77	4.54	4.35	4.63	4.68	4.67
差 a-b	-0.56	-0.56	-0.51	-0.67	-0.70	-0.58	-0.49

図４－６．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
評定値の平均値

4-2-3) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表4-4に示す。

2021 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、DP1～DP7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-7に示す。各設問に対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-6に示す。DP1～DP7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-9に示す。

2021 年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、全ての項目において、評定値の中央値は「4：最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できていると考えられる。DP2：倫理態度、DP6：専門技能については、「4：最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門職業人としての基本的態度や知識、臨床技能とチーム医療を問う項目であり、本学科の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、DP4：生涯学習は、上記項目と比較して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」や「2：十分に修得できていない」の割合が多い傾向を認めたことから、「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。DP6：専門技能を除いた、すべての項目で自己評価は就職先施設評価値よりも高く、その差は0.03から0.3程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

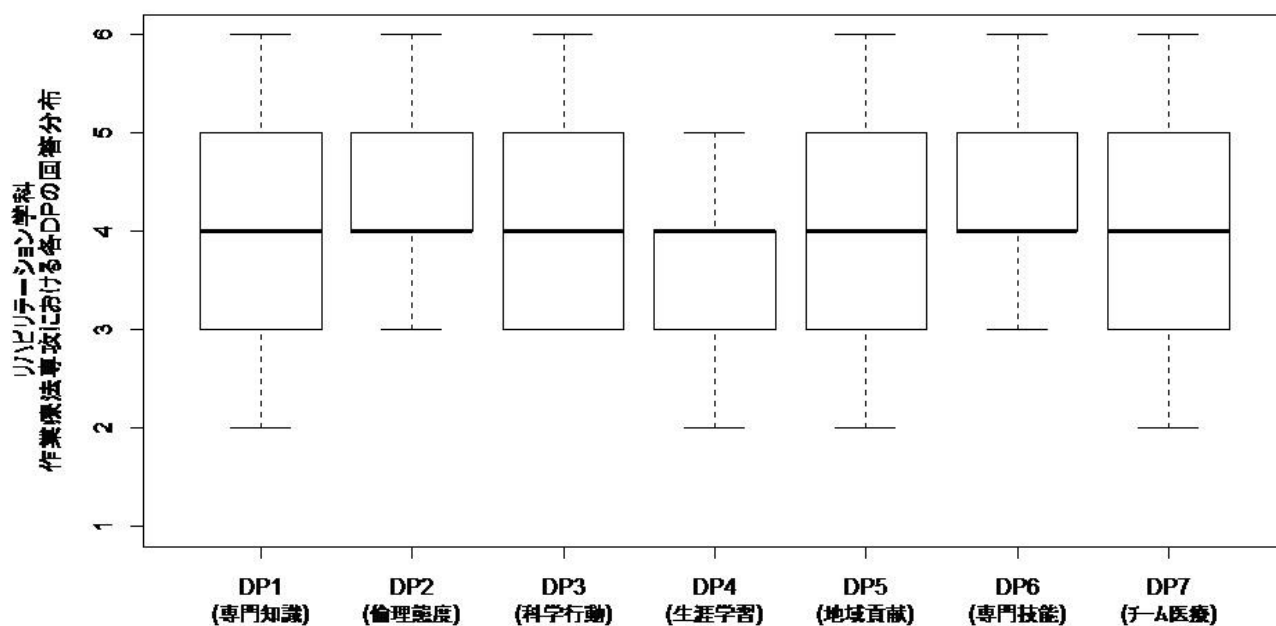


図 4-7. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

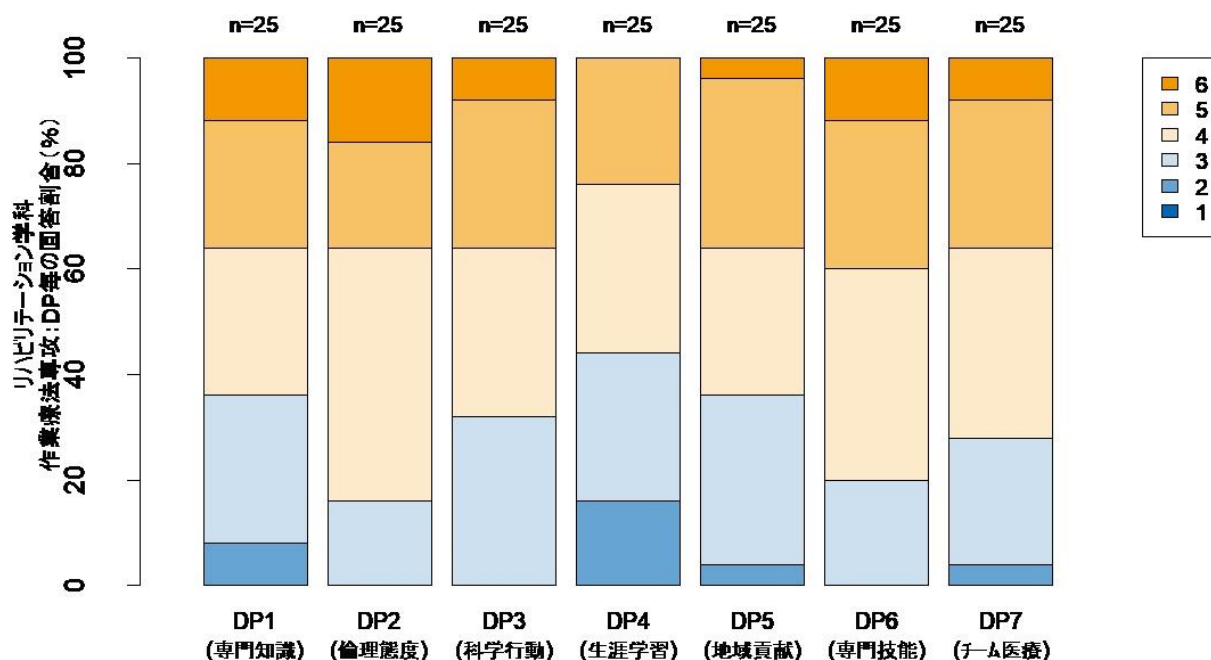
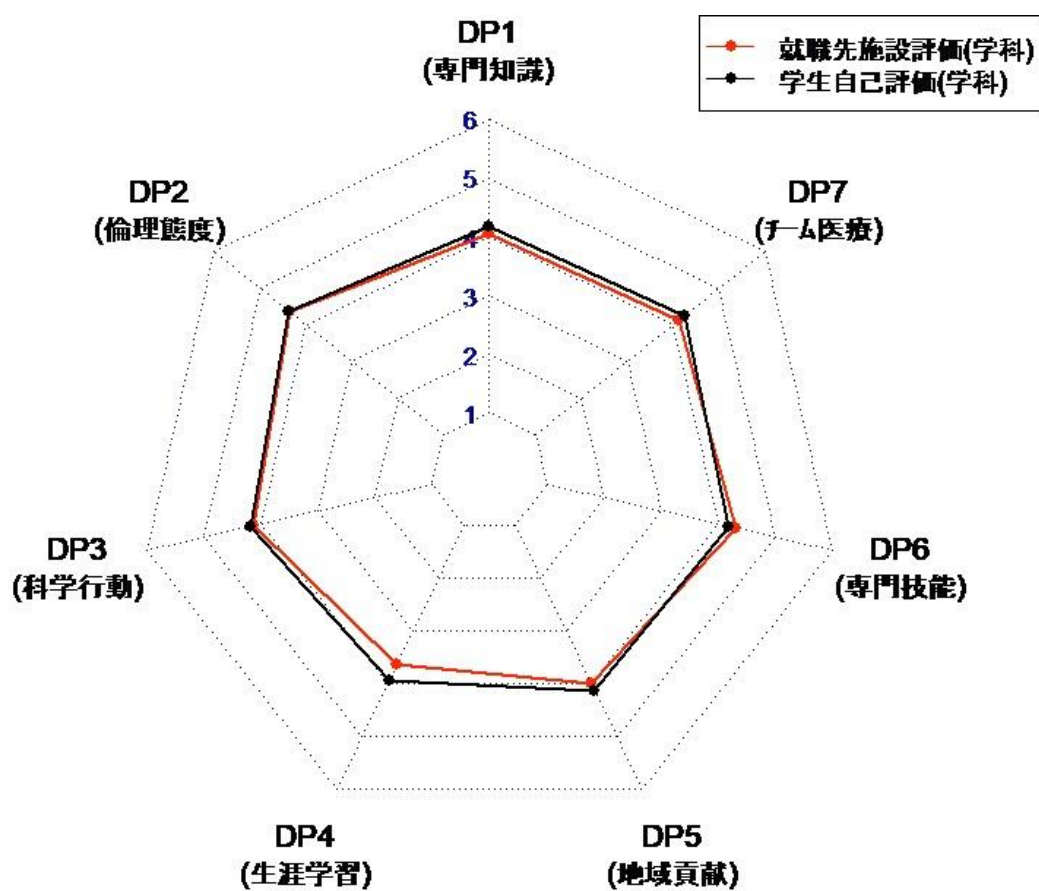


図 4-8. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表 4－6. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ作業	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.04	4.36	4.12	3.64	4.00	4.32	4.12
標準偏差	1.15	0.93	0.95	1.02	0.98	0.93	0.99
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	5	6	6	6
最小値	2	3	3	2	2	3	2
n	25	25	25	25	25	25	25



リハ・作業	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
就職先施設評価 a	4.04	4.36	4.12	3.64	4.00	4.32	4.12
学生自己評価 b	4.18	4.39	4.18	3.95	4.13	4.18	4.24
差 a-b	-0.14	-0.03	-0.06	-0.31	-0.13	0.14	-0.12

図 4－9. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
評定値の平均値

5. 参考資料

2021 年度保健衛生学部卒業生（看護・リハビリテーションの各学科）の就職先施設に対し、図5－1に示す調査依頼状を送付し、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

●●●●●●●●●●病院

採用ご担当者様

藤田医科大学
医療科学部 学部長 齋藤 邦明
IR 推進センター長 太田 亮彦

2022 年 8 月吉日

藤田医科大学 医療科学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマ・ポリシーに関する調査のお願い (依頼書)

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くおれ申し上げます。さて、本年度までに貴院でご採用頂きました本学の医療科学部卒業生（臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科、医療経営情報学科）を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の医療科学部及び学科別の教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの卒業が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身につけているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に 4 年間の振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後数箇月～数年経過したこの時点で、本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますよう、お取り計らい頂ければ幸いです。この調査は、文部科学省が進める私立大学等改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

記

調査内容：本学卒業学生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査
回答期間：本書到着日 ～ 2022 年 9 月 30 日（木）
調査対象：2022 年 4 月入職者（2022 年 3 月卒業生）
同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答

同封書類：
1. Google フォームによる WEB 回答のご案内
2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー調査内容
3. 各職種ディプロマ・ポリシー調査内容

以上

お問い合わせ窓口：
藤田医科大学 事務局 総務部
学生支援課 キヤリア支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

■Google フォームによる WEB 回答のご案内■

本学では SDGs 推進、環境負荷低減、コスト削減の観点からペーパーレス化を推奨しております。調査回答につきましては、ご案内の URL または、以下の QR コードをスマートフォン等から読み取りご回答いただく事が可能です。

対象職種	調査回答 URL	調査回答 QR コード
看護師	https://forms.gle/MpDEMuKAwketZiZ6	
理学療法士	https://forms.gle/aRem7i28TXPNRY3x6	
作業療法士	https://forms.gle/kb3k8FYCKXNc3U6	

図5－1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文（看護学科・リハビリテーション学科理学療法専攻／作業療法専攻）法専攻）

- 33 -